

# ポーランド・マクロ経済情勢

2021年1月  
在ポーランド日本国大使館  
経済班

## ポイント

### 1 感染症第2波の影響により不透明性が増している

2019年のGDP成長率は4.5%で、引き続き好調な経済成長を遂げた(2017年は4.8%、2018年は5.4%)。このところ、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の第1波からの持ち直しの動きを見せていたものの、足下では、第2波の影響等により再び不透明性が増している。COVID-19感染状況や右に伴う規制措置の強化等の動向を注視する必要がある。2020年5月、COVID-19の影響等を勘案し、金融政策委員会は政策金利を史上最低の0.1%に再度引き下げるなど金融市場安定化のために金融政策を緩和。

### 2 生産は持ち直し・消費は弱い動きとなっている

**11月の鉱工業生産は対前年同月比5.4%増、小売販売は対前年同月比5.3%減。**生産は持ち直しの動きを見せているが、消費は弱含んでおり、引き続きCOVID-19の影響等を注視する必要がある。

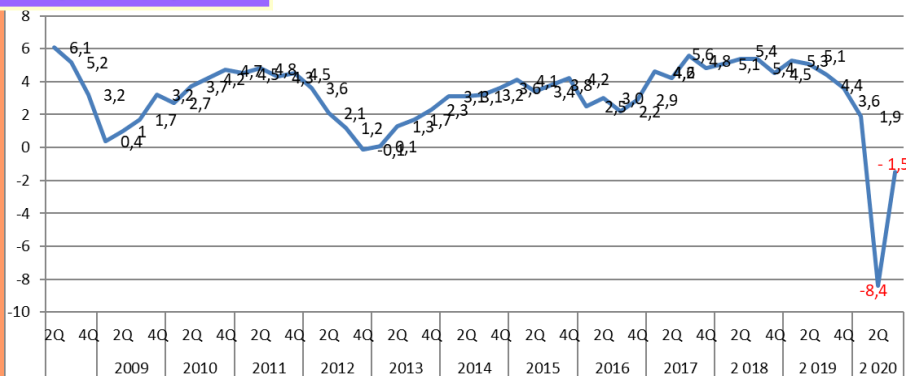
### 3 物価は上昇

**11月の消費者物価指数(CPI)は、対前年同月比3.0%上昇。**2020年4月以降は中央銀行のインフレ目標値2.5±1%の範囲内の数値内で推移。

### 4 雇用情勢は感染症の影響により弱い動き

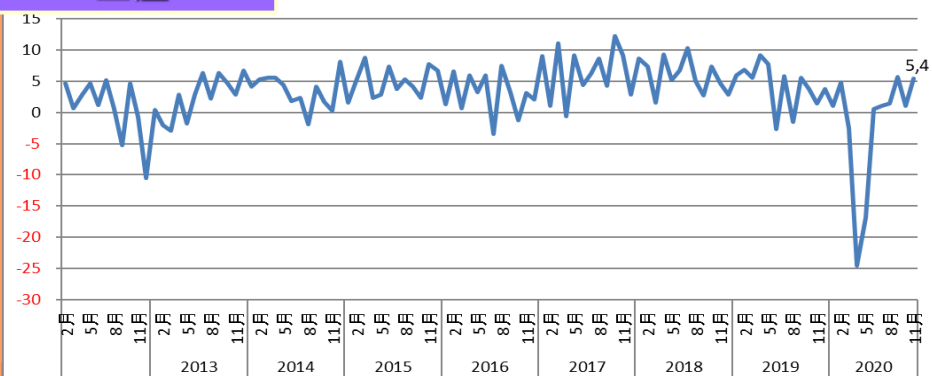
**11月の失業率は6.1%、平均賃金上昇率は対前年同月比4.9%増。**失業率は対前月比同、賃金上昇率は上昇したが、COVID-19の影響により、雇用情勢は引き続き弱い動きとなっている。

#### 経済成長



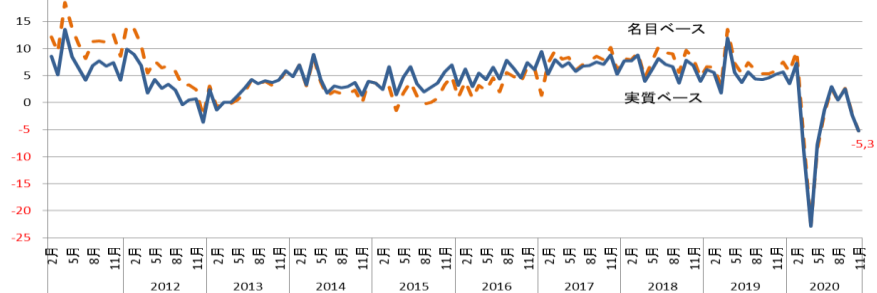
堅調な消費やEU基金を活用したインフラ整備等が経済成長に寄与するも、足下ではCOVID-19の影響によりGDP成長率は低下。

#### 生産



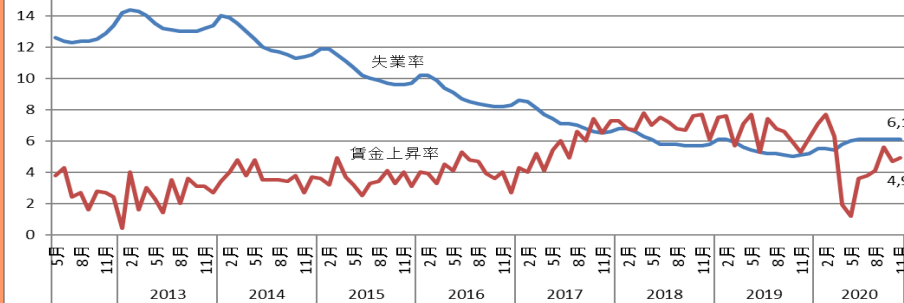
鉱工業生産は対前年同月比5.4%増と持ち直しの動きを見せている。

## 消費



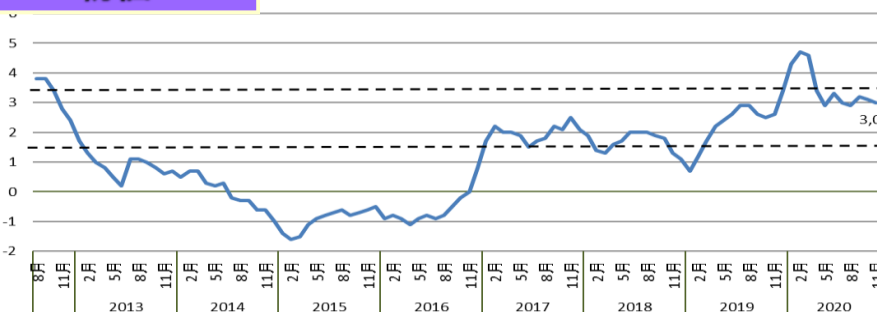
小売販売は対前年同月比5.3%減と弱含んでおり、COVID-19の影響等の動向を注視する必要がある。

## 雇用



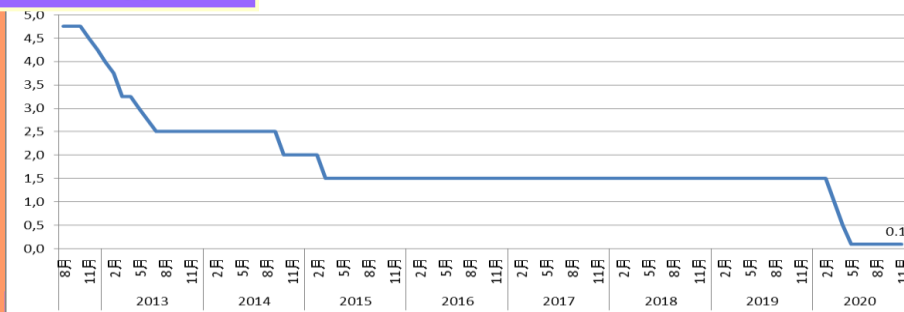
11月の失業率は6.1%で対前月比同。平均賃金上昇率は対前年同月比4.9%増に上昇。

## 物価



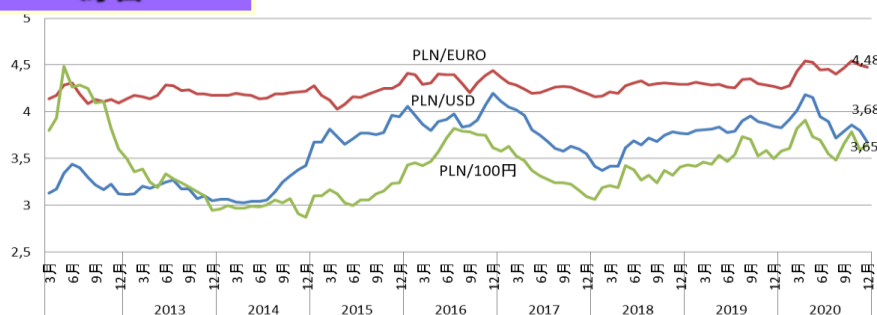
11月のCPIは対前年同月比3.0%上昇。2020年4月以降は中央銀行のインフレ目標値2.5±1%の範囲内で推移。

## 金利



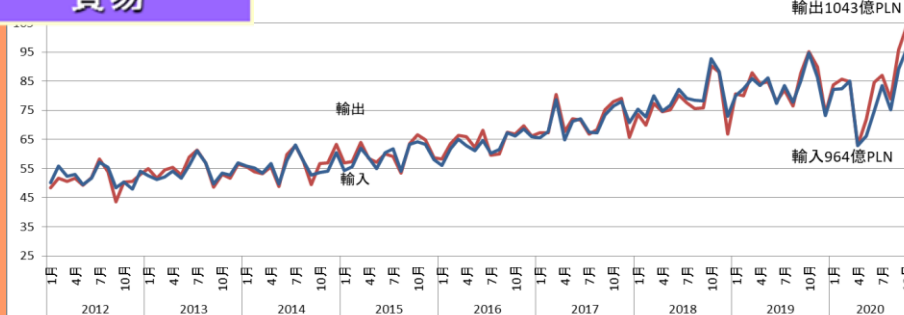
2020年6月、COVID-19の影響等を勘案し、政策金利を史上最低の0.1%に再度引き下げるなど金融市場安定化のために金融政策を緩和した。

## 為替



12月の平均為替は、対ユーロ(4.48ズロチ)、対ドル(3.68ズロチ)でそれぞれズロチ高、対日本円(3.65ズロチ)でズロチ安が進んだ。

## 貿易



10月の輸出は約1,043億ズロチ、輸入は約964億ズロチで約79億ズロチの貿易黒字となった(9月は66億ズロチの貿易黒字)。輸出・輸入共に増加している。